

科目名	社会言語学特講	担当者	ハタカオリ 秦 かおり	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>近年、言語・文化の異なる相手とのコミュニケーションの機会が増加し、相手の言語文化的ルールを察知し円滑なコミュニケーションをとることが、様々なシーンで期待されている。そこで本科目では、言語を単なる一方向の意志を伝える道具ではなく、文化・社会を反映し会話参与者の相互行為的作用の産物であると捉え、社会言語学研究の先行研究を一通り学習することを第1の目的とする。これは、知識に基づいた想像力、現場での応用力、自考力の育成に他ならない。これによって、自らが日頃行っている言語行動に深い意味があることに気付き、本科目が終了した後、修了者が言語行動を批判的に読み解き発展させることが最終的な目的である。</p>		
到達目標	<p>前期は、社会言語学という学問分野が誕生した背景を理解し、その分野の多岐性を理解する。その後、「社会言語学」と呼ばれる分野で取り上げられる様々な視点を理解し、社会言語学が如何に社会に貢献できるか、という点を考えるところまで到達したい。</p> <p>後期は、社会言語学の中の言語使用、特に話しことばの談話分析に焦点をあて、私たちが日頃何気なく行っていることばによるコミュニケーションは、如何に多様な意味を持ち、またそれが、文化・社会と密接に関わりを持っていることを理解し、批判的自考力を発揮して自分なりの研究プロジェクトを立ち上げ、調査の上、レポートを書き上げるところまでを到達目標とする。</p>		
学修方法	<p>基本教材・関係資料を精読し、その中から自分なりのリサーチ・クエスチョンを設定した上で課題に取り組むこと。レポート作成の過程では、アイデア、リサーチ・クエスチョンの設定、アウトラインの作成、草稿から最終稿まで、担当教員との綿密なやり取りを通して添削、修正を、一定水準に達するまで繰り返す。それにあたっては、メールやレポート提出システム manaba を活用し、学習ポートフォリオを作成していく。</p>		
スケジュール	<p>初稿を提出後、担当者より添削指導を行う。最終稿の提出は、担当者の了解を得た後に提出することとする。</p> <p><前期>（基本教材1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題1：初稿締切5月末、最終稿締切7月中旬 ・レポート課題2：初稿締切7月末、最終稿締切9月中旬 <p><後期>（基本教材2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題1：初稿9月末、最終稿11月中旬 ・レポート課題2：初稿11月末、最終稿2017年1月学年暦記載の課題提出締切日 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材を精読し、理解するだけでなく、批判的思考力をもって自分なりの考えが盛り込まれ、且つそれが単なるアイデアではなく、先行研究における位置づけが明確であることや、論理の展開に説得力があるかを重視する。また、論文としての体裁についても評価の対象とする。
	平常評価	20%	メール、manabaなどを活用してのレポート添削後の修正など、年間を通して真摯に学習に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	<p>レポート作成にあたっては、基本教材を精読することはもちろんのこと、関連資料についてもしっかりと調べ、考察を進めること。また、前後期共に、レポート課題1の最終稿締切とレポート課題2の初稿締切が近いので、レポート課題1と並行してレポート課題2のリサーチを始めていないと間に合わなくなる可能性がある。締切を頭に入れた上で、計画的に学習を進めることが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 岩田祐子・重光由加・村田泰美 教材名： 『概説 社会言語学』（ひつじ書房，2013）ISBN:978-4-89476-637-2 2,200 円+税
	本書は、「社会言語学」の基本的な成果，専門用語を分かりやすく解説した概説書である。各章に「読書リスト」や「問題」がついていることから，自学自習しやすい特徴をもつ。最初に社会言語学成り立ちの歴史的経緯から始まり，その分野的拡がりまで扱っているため，最初から最後まで精読すること。
参考図書	1. 東照二（著）『社会言語学入門 <改訂版>—生きた言葉のおもしろさに迫る』（研究社，2009年）ISBN:978-4-327-40157-3 2,300 円+税 2. 『講座 社会言語科学』シリーズ（ひつじ書房）シリーズ物で，それぞれ「異文化とコミュニケーション（ISBN4-89476-245-5，3,200 円+税）」「社会・行動システム（ISBN4-89476-249-8，3,200 円+税）」などのテーマに沿って複数の論文を掲載してある。基本教材を読んだ後に興味を湧いたテーマの本を読むと良い。
履修上のポイント	社会言語学とは，language use つまり言語使用の学問であり，今，まさにこれを読んでいる履修者を始め，人間が言葉を使って日常的に何気なく行っていることを解明しようとする学問である。前期は，教材を精読し，社会言語学とは何かという学問領域理解に加え，机上の空論ではなく身近な例に引きつけて考えることが重要である。
レポート課題 1	基本教材の各章の最後に書かれている「問題」から少なくとも1つを取り上げて調査し，論じなさい。（1,500 字） 留意点： 少なくとも3点以上の関連する先行研究をまとめ，自分の論文の位置づけを明らかにすること。単に先行研究や調査結果の羅列にならないよう，自分の論考をまとめること。
レポート課題 2	レポート課題 1 で取り上げた章以外の章を取り上げ，その最後に書かれている「問題」ではなく，自ら考えだしたリサーチ・クエスチョンを立てて調査し，論じなさい。「リサーチ・クエスチョンを立てて調査し論ずる」とは，例えば「日本ではどうなのだろうか?」「ここに書かれていることは〇〇のようなケースでもあてはまるのだろうか?」といった疑問を出発点とし，それを解明するために調査し，答えを求めることである。（2,000 字） 留意点： リサーチ・クエスチョンとは「研究上の疑問」即ち，ここでは，その章を読んだ時に浮かび上がった問題意識のことである。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： デボラ・カメロン（著），林宅男（監訳） 教材名： 『話し言葉の談話分析』（ひつじ書房，2012年）ISBN:978-4-89476-618-1 3,200 円+税
	本書は Deborah Cameron の <i>Working with Spoken Discourse</i> の訳書である。話し言葉を分析することによって何を知ることが出来るのかを多方面から解説している。特に，最終章は「自身の研究プロジェクトを計画する」ための解説になっており，自学自習のためにも良書といえる。前期の基本教材に比べてやや難易度は高いが，履修者は必ず最初から最後まで精読すること。
参考図書	1. 佐藤彰・秦かおり（編）『ナラティブ研究の最前線—人は語ることで何をなすのか』（ひつじ書房，2013年）ISBN:978-4-89476-645-7 4,000 円+税 2. 橋内武（著）『ディスコース—談話の織りなす世界』（くろしお出版，1999年）ISBN:978-4-87424-172-1 2,400 円+税 3. ジョン・ガンパーズ（著）井上逸兵他（訳）『認知と相互行為の社会言語学—ディスコース・ストラテジー』（松柏社，2004年）ISBN:978-4-77-540055-5 3,300 円+税 4. 林宅男（編著）『談話分析のアプローチ—理論と実践』（研究社，2008年）ISBN:978-4-327-40151-1 3,000 円+税
履修上のポイント	前期よりもより緻密で実際の調査に基づいた論考が求められる。時間がかかることが予測されるので，早めに準備を始めること。
レポート課題 1	基本教材 2 を精読し，自身を取り巻く社会現象を鑑みて，身近な事例について先行研究を適宜引用しながら論じなさい。（1,500 字） 留意点： 少なくとも3点以上の関連する先行研究をまとめ，自分の論文の位置づけを明らかにすること。単に先行研究や調査結果の羅列にならないよう，自分の論考をまとめること。
レポート課題 2	レポート課題 1 に関連してリサーチ・クエスチョンを立てて，実際に自ら談話データを収集し，書き起こし，分析して論文にしなさい。（2,000 字） 留意点： 談話の書き起こし方法には幾つかあるので，適宜担当者に相談のこと。